



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN・SAITAMA

しらこぼと

2010.10

No. 318

日本野鳥の会 埼玉県支部

S H I R A K O B A T O



いつまでも、伊豆沼・^{かぶくり}蕪栗沼

榎本 秀和(鴻巣市)

◆はじめに

あれは2007年9月2日。支部リーダー研修会後の懇親会で、座が盛り上がった頃に誰かが言った。

「そういえば伊豆沼にしばらく行ってないね」

「そうだね。探鳥会もやってないし」

「じゃあやるか、任せといて」

この最後の軽薄な発言の主こそ、何を隠そうこの私であった(反省！)。

というわけで、翌2008年2月に久しぶりの伊豆沼探鳥会を執行することになったのである。しかし、伊豆沼にはずいぶん行ってないなあ。下見をするにしても、如何せん、あまりにも遠い。

そこで考えついたのが、主催は当支部のまま、新幹線・現地バス・宿泊・食事と、ついでに現地案内人の手配まで旅行社に一括して依頼する方法だ。費用が多少かさむところは内容の充実で補うということで、探鳥会の概要は決定した。

◆伊豆沼と蕪栗沼

下りの東北新幹線がくりこま高原駅に到着する少し前に、右側の窓越しに遠く湖水が見える。これが宮城県の最北部、栗原市と登米

市にまたがる伊豆沼である。

伊豆沼(隣接する内沼を含む。以下同じ。)は、ご存知のとおり、我が国有数の渡り鳥(特にガン・カモ・ハクチョウ類)の越冬地で、1967年には国の天然記念物に指定されている。そして1985年には、「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」(通称「ラムサール条約」)にも国内で2番目に登録されており、古くからバードウォッチャーに親しまれてきた土地柄である。

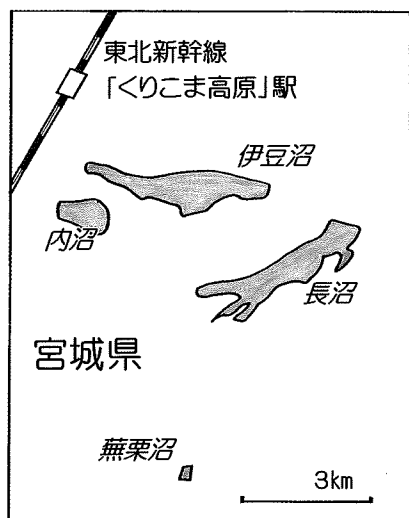
一方、蕪栗沼は宮城県大崎市にある沼で、伊豆沼の南10kmほどに位置し、沼を中心とした遊水地一帯を広義に蕪栗沼と称している。かつては伊豆沼ほどメジャーな探鳥地ではなかったが、こちらも2005年にはラムサール条約に登録されていることを忘れてはならない。

探鳥会では、伊豆沼と蕪栗沼の周辺を巡りながら探鳥を行なうことになる。

◆探鳥の見どころ

伊豆沼・蕪栗沼での探鳥の見どころは、前述のとおり、越冬する多数のガン・カモ・ハクチョウ類である。特にガン(おもにマガンとヒシクイ)は、根拠不詳ながら、一説に伊豆沼6万羽、蕪栗沼5万羽、合わせて11万羽が越冬するといわれている。これは日本で越冬するガンのほとんどが、この地に集まっているということである。昼間は沼の周辺に広がる広大な田園に分散して採餌し、夕方、ねぐらを取りに沼に降りてくる巨大な数のガンの群れ。バードウォッチャーならずとも、一度は見たい光景ではないか。今時なかなか見られない日本の原風景といったものがそこにはある。

夕暮れ時、薄暮の空を鳴き交わしながら、竿になり鉤になり、沼を目指して飛来するガンの大群。遠くにかすむ山並みから湧き出すように、次から次へとガンの編隊が現れ、空を覆いつくし、1羽2羽と水面に降りてゆく。





早朝、宿泊施設の窓から見た
飛び立つ前のマガンの群

水面上の一定の高みで急に失速し、はらっと木の葉のように降下する。これが落雁(らくがん)だ。水面のガンはどんどん数が増えて、夕闇の中に上がる。夜の帳が下りるにしたがい、先ほどの喧騒もやがて収まる。人生観が変わるほどの感動を覚えるのは、まさにこんな時ではないだろうか。

早朝、まだ暗いうちから、水面一帯にガンの心の高鳴りのようなものがみなぎっている。日の出。ある瞬間、ガンの大群が一斉に水面から飛び立つ。爆発的な羽音を残して舞い上がり、飛び交い、鳴き交わし、やがて水面は平静に帰り、朝が明ける。私たちは、大自然の瞬発力の激しさをきっと思い知ることだろう。「伊豆沼・内沼のマガンの飛び立ち」は、環境省の「日本の音風景 100 選」(1996 年)にも選ばれている。

◆おわりに

この秋も 10 月末に伊豆沼で探鳥会を開催する。いまの形で始めてからは今回で 4 回目の伊豆沼探鳥会であるが、実をいうと今後の開催は難しくなりそうだ。それは、新幹線チケットの団体割引率が下がったことと、今まで利用していた宿泊施設の飲食部門が廃止されたことが大きな理由である。これも国内外の経済情勢の煽りの一端であろうか。

しかし、そんな人間たちの都合とは無関係に、今年も来年も、渡り鳥たちは必ずやって来る。そして私たちは、彼らが越冬する環境をいつまでも守って行かなければならないのだ。当支部としても、伊豆沼探鳥会の継続を何とか模索し、伊豆沼・蕪栗沼での感動をより多くの人に伝えて行きたいものである。

過去3回の記録から

鳥名	2008/2/9	2008/11/22	2009/10/31
1 カイツブリ	○		○
2 ミミカイツブリ		○	○
3 カンムリカイツブリ		○	○
4 カワウ		○	○
5 ダイサギ	○	○	○
6 チュウサギ		○	○
7 アオサギ	○	○	○
8 シジュウカラガン		○	
9 マガン	○	○	○
10 ヒシクイ	○	○	○
11 ハクガン		○	
12 オオハクチョウ	○	○	○
13 コハクチョウ		○	○
14 マガモ	○	○	○
15 カルガモ	○	○	○
16 コガモ	○	○	○
17 トモエガモ	○	○	○
18 ヒドリガモ		○	○
19 オナガガモ	○	○	○
20 ハシビロガモ	○	○	○
21 ホシハジロ	○	○	○
22 キンクロハジロ	○	○	○
23 ミコアイサ	○	○	
24 カワアイサ	○	○	
25 トビ	○	○	○
26 オジロワシ	○	○	
27 オオタカ	○		○
28 ケアシノスリ	○		
29 ノスリ	○	○	○
30 ハイイロチュウヒ	○		
31 チュウヒ	○	○	○
32 ハヤブサ		○	
33 チゴハヤブサ			
34 コチョウゲンボウ	○	○	○
35 チョウゲンボウ			○
36 キジ			○
37 クイナ	○		
38 オオバン	○	○	○
39 イカルチドリ		○	
40 ムナグロ	○		
41 クゲリ	○	○	○
42 ウズラシギ		○	
43 エリマキシギ	○	○	○
44 オオハシギ	○	○	
45 ツルシギ			○
46 アオアシシギ	○	○	
47 イソシギ			○
48 オグロシギ			○
49 タシギ	○	○	
50 ユリカモメ	○		
51 カモメ	○		
52 ウミネコ	○		
53 ハシロクロハラアジサシ			○
54 キジバト	○	○	○
55 カウセミ		○	
56 アカゲラ	○	○	○
57 コゲラ	○	○	○
58 ヒバリ	○	○	○
59 ハクセキレイ	○	○	○
60 セグロセキレイ	○	○	○
61 タヒバリ	○	○	○
62 ヒヨドリ	○	○	○
63 モズ	○	○	○
64 ジョウビタキ	○	○	○
65 ツグミ	○	○	○
66 ウグイス	○	○	○
67 エナガ	○		
68 ヤマガラ		○	○
69 シジュウカラ	○	○	○
70 ホオジロ	○	○	○
71 カシラダカ	○	○	○
72 アオジ	○	○	○
73 オオジュリン	○	○	
74 アトリ	○		
75 カワラヒワ	○	○	○
76 ベニマシコ	○	○	○
77 シメ		○	○
78 スズメ	○	○	○
79 ムクドリ	○	○	○
80 カケス		○	○
81 オナガ			○
82 コクマルガラス		○	
83 ミヤマガラス		○	○
84 ハシボソガラス	○	○	○
85 ハシブトガラス	○	○	○
86 ドバト	○	○	○
合計	61	66	52

シラコバトの繁殖記録

柳 清二(加須市)

加須市(旧大利根町)内のある建物で 2008 年春にシラコバトが巣を作り始めたが、建物が汚れる等の理由で巣を撤去されてしまった。その後関係者の協力が得られ、2009 年と 2010 年は繁殖の状況を継続して観察することができた。その様子を報告する。

冬の間あまり姿を見せなかったシラコバトを 2009 年 4 月 14 日 2 羽観察。5 月 19 日待望の抱卵を確認。6 月 1 日順調に抱卵中。夕方採餌のために出てきた♀の羽づくろいをみが手伝うような動作をして、♀のご機嫌をとる。6 月 11 日抱卵中の♀がいない。巣の下に割れた卵殻がある。孵化したのか。6 月 17 日大きな幼鳥が巣にいた。6 月 18 日親が給餌。幼鳥は 2 羽。大分大きい。孵化したと思われる日から 10 日あまり。成長が早い。暗くなっても親は戻らなかった。6 月 19 日幼鳥は朝から活発に動いていた。巣から少し離れた梁に乗った。2 羽ともこの後まもなくあっけなく巣立ち。親は近くの枝の上で相互羽づくろいをしていて幼鳥の面倒を見るわけでもなく、次の繁殖の準備に入った。交尾を確認。6 月 23 日別の場所に新しい巣ができていた。6 月 25 日相変わらず相互羽づくろい。6 月 26 日巣に♀が入っていたが、抱卵ではなさそう。6 月 28 日近くの木の茂みに巣立った幼鳥。巣立ってから 9 日。顔つきはまだ幼い。7 月 1 日 2 度目の抱卵開始。7 月 2 日巣立ち後 13 日の幼鳥は 2 羽とも順調に育っている。7 月 14 日 2 度目の孵化直前か。7 月 15 日朝から♀の姿が見えない。孵化しないことがわかって放棄したのか。巣にはスズメが入っていた。7 月 19



巣立ちした幼鳥

日本の上で親が 3 度目の繁殖行動。7 月 21 日今日も巣はからっぽ。外でオスが鳴いている。その後 7 月末まで、幼鳥 2 羽は近くの木の上で生活していた。

(2009 年の観察終了)

2010 年 5 月 20 日今年は姿も鳴き声もほとんどない。昨年の巣もからっぽのまま。5 月 22 日 2 日前にはなかったのに突然巣ができていた。5 月 23 日巣の手入れ中。5 月 25 日巣の中で動かなくなり抱卵を始めた様子。6 月 8 日午後になると腹の下に幼鳥がいるような仕草。孵化に間違いはない。抱卵開始から 15 日目。6 月 9 日孵化後 2 日。親が突然巣から出て行きすぐに戻ってきた。今度はメスのようだ。幼鳥に餌を与えている。6 月 12 日孵化後 5 日。幼鳥 2 羽確認。6 月 14 日孵化後 7 日。親のくちばしに幼鳥 2 羽が同時に頭を突っ込み、餌を食べている。交代のため 1 時間空き巣に。幼鳥はすごい食欲。6 月 15 日孵化後 8 日。親は何時間も外でくつろいでいる。5 時間ぶりに給餌。空腹の幼鳥は食べるのに夢中。6 月 17 日孵化後 10 日。親が戻るまで幼鳥は何時間も待つ。親が戻り給餌。相変わらずすごい食欲。6 月 18 日孵化後 11 日。今日は巣の近くで草刈作業。親は巣に入れない。近くの木の上で相互羽づくろい。6 月 19 日孵化後 12 日。日中は 4 時間ごとの給餌。6 月 21 日孵化後 14 日。幼鳥が大きくはばたく。6 月 22 日孵化後 15 日。日中はほとんど給餌なし。6 月 24 日孵化後 17 日。幼鳥が巣を出て梁の上に。6 月 26 日孵化後 19 日。1 羽の幼鳥が建物近くの木の上に。2 番目の幼鳥も巣立ち。親は次の繁殖の準備に入った。

(2010 年の観察終了)

すべてのシラコバトの繁殖がこれと同じとは言えないだろうが、この観察の結果としては、次のようにまとめる事ができる。

- ① 1 腹 2 卵。
- ② 抱卵開始から孵化まで 15 日前後。孵化から巣立ちまで 19 日前後。抱卵開始から巣立ちまで 33 日前後。
- ③ 孵化後 8 日以降は長時間巣をあける様になって雌雄交代で給餌する。
- ④ 孵化後 11 日前後から親は次の繁殖行動を始める。

『龍馬伝』とヤイロチョウ
編集作業でのメール交換から

(部)と(み)

[(部)から(み)へ:追伸]

先日、龍馬伝を見るとは無しに見ていました。場面は、藩主山内容堂が武市半平太に切腹を命じる緊張の場面。と、そのバックになにやら聞き覚えのある野鳥の声。

なんとなんと！ ヤイロチョウではありませんか。声としては小さくはありましたが、私は聞き逃しませんでしたぞ。当時の高知城にはヤイロチョウがいたのでしょうか。または、効果音係の人が高知県の鳥がヤイロチョウと知って、気を利かせたのでしょうか。

いずれにしろ、泣かせる場面でしたが、気持はヤイロチョウになってしまいました。

[(み)から(部)へ:返信]

やっぱり、鳴いてましたか！ 龍馬伝！と言っても、私が気づいたのはご指摘の場面ではなく、放送第1回目です。よく覚えていないのですが、龍馬幼少の頃の土砂降りのシーンでした。

周りはけっこう深そうな森だったので、期せずしてロケ中に音を拾ったのかな？と思いましたが、まさかねえ……。

おそらく鳥を知っているスタッフが、高知県ということで時々効果音に入れているのではないのでしょうか？

効果音の鳥の声と言えば、同じNHKの朝ドラ『ゲゲゲの女房』。時々ゴジュウカラの「フィフィフィ」という声が入ります(舞台は、昭和30年代～40年代の調布市です)。

先日、これが話題になりました。明らかに、鳥を知らない人が、鳥の声なら何でもいいや、という感じで使ったのだと思いますが、当時の調布、というか多摩地区にはゴジュウカラがいたかもしれない、という意見もありました。

そう言われてみれば、私のゴジュウカラ初見の記録は「1975年10月 高尾山」でした。

カラス、オナガ、カッコウ

立岩恒久(桶川市)

今年の7月3日の早朝、畑に行く途中のこ

と。桶川市内泉のケヤキの木でカラスが3羽カア、カアと鳴き、オナガがギャー、ギャー騒いでいた。じっと眺めていると、カラスがケヤキの枝の中に飛び込んだ。と思いきや、すぐに白い卵を嘴にくわえて外へ飛び出てきた。オナガの群はさあ大変。カラスに体当たりしたり、追っかけたり。でもカラスはまんまと逃げてしまった。自然界では天敵になわないものなのか。

しかしその卵は、もしかしたら先日カッコウがオナガの巣に托卵したものではないのか、と一瞬考えた。というのも、毎朝、この辺一体にカッコウが鳴いているし、昨日は同所で、ピピピ……と雌の鳴き声も聞こえていたからだ。

今年も、タカの渡りの季節がやってきた
長嶋宏之(蓮田市)

9月1日、今年はルートを変えたかと心配し始めていた矢先だった。今朝は南の空に積乱雲が盛り上がり、北風が爽やかだった。雲の峰が西に連なっていた。

久々に聞く「ピックイーン」の声。サシバだ！ 見上げると8羽のタカ柱！ 昨年より2週間遅れの到来だ。

考えてみれば、ここ数日スッカラカンと晴れた日が続いている。過去の経験から、スッカラカンと晴れた日はタカは渡らない様である。今朝はタカにとっても待ち詫びた入道雲の湧く夏空だったのだろう。

これから、楽しい日が続く。





野鳥情報

蓮田市西城沼公園 ◇6月2日、カッコウの
声が木々の間から聞こえ、巣立ったばかり
のシジュウカラが親の後を追いかけて枝移
り。6月6日、コアジサシが2羽、沼の上
空で旋回。何度も飛び込んでいた。6月11
日、エナガが2羽、屋敷林の縁にいて「ジ
ュリリイ チリリリリ」。今年は繁殖した
のだろうか？ 6月29日、沼の上空でツバ
メが15羽、ツバメ柱を作っていた。今年生
まれの若鳥が加わったようだ。7月20日、
珍しくホオジロが電線でさえずっていた。
おかしいカラスがいると思ったら、サシバ
のひ成鳥だった。今季初認。コジュケイが
足早に遊歩道を横切った。家族を連れてい
ない。独り者だろうか？ 木陰でナガサキ
アゲハが飛んでいた。今季初認。7月31日、
ハクセキレイにしては頭が大きいと思っ
たら、白っぽいモズだった。尾羽を回しなが
ら、周囲を眺めていた。カワラヒワの鳴き
声が樹冠から侘しく聞こえた。ムクドリ83
羽が芝生で採餌。若鳥も混じっている。ム
クドリの学校のような（長嶋宏之）。

蓮田市蓮田 ◇6月15日午前8時30分頃、カ
ッコウ、庭のシラカシの木で5分位鳴いて
いた。6月16日午前9時頃、クロツグミが
さえずっていた。少し木にとまって通過し
て行った（本多己秀）。

さいたま市見沼区深作 ◇6月4日午前9時
頃、オオヨシキリ多し、ムクドリ大変多し、
チュウサギ3羽、セッカ、ヒバリなど（本
多己秀）。

さいたま市岩槻区岩槻文化公園 ◇7月31日
午後8時～9時30分、公園内のあちこちで
アブラゼミの羽化する姿を観察する。観察
の間中、公園の北側の方からアオバズクの
鳴き声がずっと聞こえていた（藤原寛治）。

越谷市県立健康福祉センター ◇6月14日午
前11頃、湿地保全域のヤナギやアシの群生
地にゴイサギの幼鳥（ホシゴイ）、デジカ
メで撮る。隣の噴水池でコアジサシの♀5
～7羽が採餌に池中に飛込みを繰り返す（船

木数樹）。

秩父市大滝町・大血川 ◇6月24日午後1時
頃、東谷沢周辺の溪流沿いでカワガラス2
羽、ハクセキレイの♀を見る。マタタビの
群生の中でウグイスが谷渡りといわれる警
戒の声をあげる（船木数樹）。

羽生市羽生水郷公園 ◇6月25日、ホオジロ
とカワラヒワがメタセコイヤとモミジバフ
ウの梢で「チョチチチョチュリリー・コロ
コロビジーン」、あたかもデュエットの
ようだった。コアジサシが8羽いて、3羽
が砂礫で座っている。雛や若鳥はいないよ
うだ。小魚をくわえた1羽が飛んできて、
座っている1羽に近寄った。しかし、餌を
みせびらかすだけで渡そうとしない。何を
考えているのだろうか。そばで、コチドリが
眠そうに目を閉じていた。その他、オオヨ
シキリとヒバリが賑やかでした（長嶋宏之）。

宮代町東武動物公園 ◇6月28日、何処から
かコジュケイの声が響いてきた。今日は休
園日なので人気が無く、安心していただけ
る。夕方、ゴイサギとダイサギが次々と
上空を通過。近くに時が有るのだろうか？
コアジサシがホバリングする傍らを、時に
帰るカワウが通りすぎ、コブハクチョウが
悠然と泳いでいた（長嶋宏之）。

深谷市荒川明戸堰上流 ◇7月31日、炎天下
の河川敷。カルガモの群中にマガモの♀エ
クリプス1羽、♀1羽。シギの渡来にはまだ
早いようだ（榎本秀和）。

表紙の写真

スズメ目ヒタキ科サメビタキ属サメビタキ

胸と脇に不明瞭な縦斑があります。この写
真のように縦斑が目立つものがいて、しばし
ばエゾビタキと間違えられます。両者の違い
でわかりやすいのは、大雨覆先端と三列風切
外縁の色。エゾビタキは「汚白色」、サメビ
タキのそれは「バフ色」と表現されます。日
本野鳥の会『フィールドガイド日本の野鳥』
のサメビタキの胸の模様は実物の印象と大分
違いますが、大雨覆先端と三列風切外縁の色
は正確に表現されているように思います。

又部綱仁(さいたま市)



行事案内



ジョウビタキ(榮 武男)

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章の担当者に遠慮なく声をおかけください。私たちもあなたを探していますので、ご心配なく。

参加費:就学前の子無料、会員と小中学生 50 円、一般 100 円。 **持ち物:** 筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、持っていれば双眼鏡などの観察用具も(なくても大丈夫)。 **解散時刻:** 特に記載のない場合、正午から午後 1 時ごろ。

悪天候の場合は中止。小雨決行です。

できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。

北本市・石戸宿定例探鳥会

期日：10 月 3 日（日）

集合：午前 9 時、北本自然観察公園駐車場。

交通：JR 高崎線北本駅西口アイメガネ前から
北里メディカルセンター病院行きバス
8:31 発で「自然観察公園前」下車。

担当：吉原(俊)、浅見、岡安、大坂、内藤、
立岩、永野(安)、山野、長谷川

見どころ：8 月が 9 月を占拠したような今年でも、鳥たちは季節を違うことなく渡りの真最中でしょう。思わぬ出会いを期待しつつ、石戸宿にお出かけください。

さいたま市・民家園周辺定例探鳥会

期日：10 月 3 日（日）

集合：午前 9 時、さいたま市くらしの博物館
民家園駐車場、念仏橋バス停前

交通：JR 浦和駅東口 2 番バス乗り場から、東
川口駅北口行き 8:37 発で「念仏橋」下車。

後援：さいたま市くらしの博物館民家園

担当：須崎、手塚、伊藤(芳)、倉林、若林、
新井(勇)、赤堀、藤田(敏)、野口(修)

見どころ：昨年はサシバのタカ柱で盛り上がりしました。今年はどんな秋の渡り鳥たちに会えるのでしょうか。この時季ならではの思いがけない出会いがあるかも。

当日の調節池工事の状況により、差間コースかヘルシーロードコース、どちらに行くか決めます。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：10 月 10 日（日）

集合：午前 9 時 30 分、秩父鉄道大麻生駅前。

交通：秩父鉄道熊谷 9:09 発、または寄居
8:49 発に乗車。

担当：後藤、森本、大澤、倉崎、高橋(ふ)、
藤田(裕)、栗原、飛田、新井(敏)、千島、
鶴飼

見どころ：緑の色が濃くて暑い、季節がひと月ずれているような大麻生にも、この頃は確実に秋風が感じられるようになるはず。渡りの途中のショウドウツバメ、ツツドリ、ノビタキなどが見られます。

『しらこばと』袋づめの会

とき：10 月 16 日（土）午後 3 時～4 時ころ

会場：支部事務局 108 号室

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：10 月 17 日（日）

集合：午前 8 時 15 分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ。または午前 9 時、さいたま市立浦和博物館前。

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：楠見、福井、倉林、渡辺、若林、小菅、
赤堀、新部、青木、増田、宇野澤、須崎、
船木

見どころ：芝川に遊歩道ができました。鳥たちに悪影響があるかと心配しましたが、アシや草が茂っているので、多分大丈夫でし

ょう。

長野県・戸隠高原探鳥会（要予約）

期日：10月23日（土）～10月24日（日）

まだ間に合うかもしれません。前月号をご覧ください。

加須市・渡良瀬遊水地探鳥会

期日：10月23日（土）

集合：午前8時10分、東武日光線柳生駅前。
または午前8時30分、中央エントランス
駐車場。

交通：東武日光線新越谷 7:21→春日部 7:36
→栗橋 7:56→柳生 8:05 着。または JR 宇都
宮線浦和 6:55→大宮 7:03→栗橋 7:38 着で、
東武日光線乗り換え。

解散：正午ごろ、谷中村史跡ゾーン広場。

担当：内田、橋口、玉井、田邊、四分一、
植平、進士、山田（東）、茂木、佐藤、佐野、
野口（修）

見どころ：秋風とともに、谷中湖にやってき
たカモ科の仲間たち、一番乗りはコガモか、
ヒドリか、ハシビロか。大空には猛禽類が飛
び、藪の中には小鳥たちが隠れています。

川越市・西川越探鳥会

期日：10月24日（日）

集合：午前9時15分、JR 川越線西川越駅前。

交通：JR 埼京線大宮 8:36→川越で 9:06 発高
麗川行きに乗り継ぎ乗車、西川越下車。

担当：佐久間、長谷部、山本（真）、山口、中
村（祐）、山田（義）

見どころ：カモの第一陣は来てくれているか
な。ジョウビタキは間に合うかな。定番の
カワセミ、モズ、オオタカは出てくれるか
な。

宮城県・伊豆沼探鳥会（要予約）

期日：10月30日（土）～31日（日）

応募の出足の様子から、9月末になっても
まだ余裕があると思います。往復はがきに住
所、氏名、年齢、性別、電話番号、喫煙の有
無を明記して、榎本秀和（

）までお申し込みを。先月号のご

案内と今月号2～3ページをご覧ください。

行田市・さきたま古墳公園探鳥会

期日：10月31日（日）

集合：午前9時30分、県立さきたま史跡の博
物館前レストハウス。

交通：JR 高崎線吹上駅北口から、朝日バス
8:50 発、行田車庫（佐間経由）行きで「産業
道路」下車、徒歩約15分。

ご注意：北鴻巣駅からのシャトルバスは運行
中止となりました。

担当：内藤、岡安、立岩、栗原、茂木、長谷川
見どころ：「さきたま」の秋は、赤く色づいた
柿に群れる鳥たちです。しかし、秋の爽り
にも異常気象の影響が出るかもしれないと
か。鳥の世界はどうなのでしょう。ジョウ
ビタキはちゃんと来てくれると思うのです
が。

栃木県・奥日光探鳥会（要予約）

期日：11月21日（日）

集合：午前6時45分、JR 武蔵野線北朝霞駅
南口駅前広場。

ご注意：初めての集合地です。お間違いない
ように。

交通：往復とも貸し切りバスを利用。

帰着：当日午後7時30分頃を予定。

費用：6,000 円の予定（バス代、高速料金、
保険料など）。過不足の場合は当日精算。

定員：25 名（当支部会員優先、応募多数の場
合は抽選）。最少催行人員は20 名。

申し込み：往復はがきに住所、氏名、年齢（保
険加入で必要）、電話番号を明記して、入山
博（〒

）ま
で。本誌到着日による不公平をなくすため、
10月1日消印以降から有効受付とします。

担当：入山、藤澤、星、浅見、持丸、玉井
見どころ：昨年は、オジロワシが魚を捕る瞬
間を見ることができました（本年2月号表
紙写真）。さて今年は、何が、どんなパフ
ォーマンスを披露してくれるか、楽しみです。
冬が平地よりひと月は早い奥日光です。防
寒対策を忘れずに。



行事報告

12月23日（水、休） 年末講演会

参加：79名 場所：浦和コミュニティセンター

2009年を締めくくると年末講演会は、都市鳥研究会代表としてカラスやツバメなど都市鳥の研究に携わる唐沢孝一氏をお招きして開催した。恒例の第1部『ビデオで振り返るこの1年』には海老原美夫、手塚正義、菱沼一充各会員の作品が披露された。休憩をはさみ、15時から『鳥の目から見た都市環境』と題した唐沢氏の講演が始まった。

1975年頃から都市に生息する野鳥の研究を始められた。折からの高度経済成長期に、多くの野鳥が都市では見られなくなってしまったが、逆に、都市に生息地を移す野鳥もいた。この中からカラス、スズメ、ツバメなどについて、歴史的資料や観察に基づく興味あるお話を、1時間半にわたり聞かせていただいた。詳しい内容については本誌本年2月号の特集をご覧ください。（橋口長和）



5月5日（水、休） 千葉県習志野市 谷津干潟

参加：43名 天気：晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ コガモ ヒドリガモ オナガガモ ハシビロガモ バン コチドリ シロチドリ メダイチドリ ダイゼン キョウジョシギ トウネン ハマシギ キアシシギ イソシギ オオソリハシギ チュウシャクシギ セイタカシギ ユリカモメ コアジサシ キジバト ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ オオヨシキリ セッカ シ

ジュウカラ メジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス（38種）（番外：ドバト）潮回りの悪さもなんのその。コアジサシの求愛給餌やダイサギの夏羽を楽しんだ。昼近くなるとオオソリハシギやハマシギが海から入ってきて、干潟がにぎやかになった。

（杉本秀樹）

5月7～9日（金～日） 東京都 三宅島

参加：21名 天気：晴

オオミズナギドリ ハシボソミズナギドリ カツオドリ ウミウ ゴイサギ ダイサギ チュウサギ ミサゴ トビ コジュケイ キジ オオバン メリケンキアシシギ キアシシギ アカエリヒレ アシシギ セグロカモメ ウミネコ カンムリウミスズメ カラスバト キジバト アオバズク アマツバメ コゲラ ツバメ ヒヨドリ モズ ミソサザイ コマドリ イソヒヨドリ アカコッコ ウグイス ウチャマセンニュー メボソムシクイ イイジマムシクイ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ シロハラホオジロ アオジ カワラヒワ スズメ ハシブトガラス（43種）新鼻（にっぱな）荘の庭では、アカコッコ、オーストンヤマガラ等を、大路池周辺では、イイジマムシクイ、カラスバト、タネコマドリ、モスクミソサザイ、ミサゴ等を、伊豆岬灯台周辺では、ウチャマセンニュー、メリケンキアシシギ等を観察。また、噴火で埋り復興した富賀神社へ久しぶりに参拝。ウチャマセンニュー、カラスバト等を観察。夕食後は、アオバズクの声を堪能した人達もいた。9日の早朝探鳥会は、5時30分からとしたが、数人の人達は4時頃から野鳥の声のシャワーを楽しんだようだった。アカコッコ館では、シロハラホオジロを観察。三宅島では初記録とのこと。新鼻荘前の海岸では、2月に打ち上げられたクジラの姿を遠くから観察し、その近くではウミガメが見られた。帰りの船上からは、オオミズナギドリの大群、カツオドリ・カンムリウミスズメ等が観察できた。アカコッコ館レンジャーの皆様、新鼻荘の女将さん、大変お世話になりました。

（藤掛保司）

5月9日（日） 熊谷市 大森生

参加：24名 天気：晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサ

ギ マガモ カルガモ コガモ オナガガモ ト
 ビ コジュケイ キジ コチドリ イソシギ キ
 ジバト コゲラ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ
 セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ウグイス シ
 ジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ シ
 メ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス
 ハシブトガラス (33種) (番外: ガビチョウ) ゴー
 ルデンウイーク直後のためか参加者は少なかった
 が、新緑と爽やかな風の中を和気あいあいと楽し
 く探鳥できた。観察鳥数は33種と昨年並みだった。

(大澤 祐)

5月9日(日) 蓮田市 黒浜沼

参加: 56名 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ チュウサギ ア
 オサギ カルガモ チョウゲンボウ キジ ムナ
 グロ コアジサシ キジバト カワセミ コゲラ
 ヒバリ ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ
 オオヨシキリ セッカ シジュウカラ メジロ
 カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボ
 ソガラス ハシブトガラス (28種) 少し風があっ
 したが、好天に恵まれ、まさしく探鳥日和。探鳥が
 始まるとすぐに、お目当てのムナグロ10羽士の群
 れ。長い列がしばらく止る。次はアシの上で轉る
 オオヨシキリと田の中の婚姻色のダイサギ。この
 時季ならではの光景。更に進むとムナグロ50羽士
 の群れ。やはりムナグロには群れが似合う。仕上
 げはホタルの里のカワセミ。枯れ木に止まり、ま
 さしく絵になる姿。事故なく終わることができ、
 参加者の方々に感謝。

(田中幸男)

5月15日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア: 13名

新井浩、池田泰右、江浪功、海老原教子、大坂幸
 男、佐久間博文、柴野耕一郎、志村佐治、武井眺
 嗣、藤掛保司、松村禎夫、吉原俊雄、吉原早苗

5月16日(日) 栃木県 奥日光

参加: 33名 天気: 晴

アオサギ マガモ キンクロハジロ ハチクマ
 トビ ノスリ チョウゲンボウ オオバン キジ
 バト ジュウイチ アカゲラ コゲラ イワツバ
 メ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ
 ヒヨドリ モズ カワガラス ミソサザイ ルリ
 ビタキ ノビタキ アカハラ ツグミ ウグイス

メボソムシクイ エゾムシクイ センダイムシク
 イ キクイタダキ キビタキ サメビタキ コサ
 メビタキ エナガ コガラ ヒガラ シジュウカ
 ラ ゴジュウカラ キバシリ メジロ ホオジロ
 アオジ カワラヒワ ニュウナイスズメ スズメ
 ハシボソガラス ハシブトガラス (46種) 寒かっ
 た4月の影響か、日光付近では桜が満開。この時
 期に花見が出来るとは。全体的に鳥はいるけれど
 余り轉らない様子。湯の湖畔ではムシクイ類をじ
 っくりと観察。「鳴いてくれないと名前がわからな
 い」との声も。湯滝からは2班に分けて探鳥をし
 た。2班ともキビタキやミソサザイの姿を何回も
 見て全員満足の様子。光徳牧場で全員アイスクリ
 ームを食べて、最後にアカゲラをじっくり観察し
 て終了。春の奥日光は最高。

(入山 博)

5月16日(日) さいたま市 三室地区

参加: 69名 天気: 晴

カワウ カルガモ コガモ オオタカ チョウゲ
 ンボウ キジ コチドリ キジバト カワセミ
 コゲラ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ セグロ
 セキレイ ヒヨドリ モズ オオヨシキリ セッ
 カ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ スズ
 メ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス
 (25種) 初夏を告げるセッカ、オオヨシキリ、コ
 チドリが出現して楽しい探鳥会になった。加えて
 キジが声高く鳴いた。出現鳥は冬季より少なくな
 ってきているが、毎月開催する三室の探鳥会は季
 節を感じられるのが嬉しい。

(橘見邦博)

5月22~23日(土~日) 長野県 戸隠高原

参加: 30名 天気: 22=晴、23=曇後雨

カイツブリ アオサギ カルガモ キンクロハジ
 ロ トビ タカ科不明種 キジバト ジュウイチ
 カッコウ ツツドリ ホトトギス アカショウビ
 ン アオゲラ アカゲラ オオアカゲラ コゲラ
 ツバメ イワツバメ キセキレイ ハクセキレイ
 サンショウクイ ヒヨドリ ミソサザイ コルリ
 マミジロ クロツグミ アカハラ ウグイス セ
 ンダイムシクイ キクイタダキ キビタキ オオ
 ルリ コサメビタキ エナガ コガラ ヒガラ
 ヤマガラ シジュウカラ ゴジュウカラ キバシ
 リ メジロ ホオジロ ノジコ アオジ クロジ
 カワラヒワ イカル ニュウナイスズメ スズメ
 ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハ

シブトガラス (54種) 初日は、翌日の天気が不安なので森林植物園を中心に探鳥を行った。入り口のみどり池で戸隠では初めてのキンクロハジロ。コサメビタキにもすぐ出会えた。みどり池周辺でゴジュウカラ、ニュウナイスズメを観察しながら食事をとった。植物園は今年は雪が多かったとのことで、ミズバショウ、リュウキンカ、キクザキイチゲの花の盛りであった。キビタキ、アオジ、アカハラ、コルリなどの常連たちもにぎやかである。ホトトギスの仲間もすべて確認できた。そして、今回のハイライトのアカショウビン。食事をした後とのことで、じっと枝でくつろいでいる。堪能した。翌日は天気が悪かったが、コルリ、オオアカゲラがじっくり観察できて満足だった。雨のひどくなった午後は探鳥をやめて、有志で善光寺さんへお参り。

(菱沼一充)



5月23日(日) 狭山市 入間川

雨のため中止。

(長谷部謙二)

6月5日(土) 坂戸市 高麗川

参加：36名 天気：曇後晴

カイツブリ カワウ アオサギ カルガモ オオタカ ツミ ハヤブサ コジュケイ キジ コチドリ イカルチドリ キジバト ホトトギス カワセミ コゲラ ヒバリ ツバメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ウグイス オオヨシキリ セッカ シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (34種) (番外：ガビチョウ、ドバト) 鳴きながら飛翔のホトトギス、さえずに熱中の胸の茶色が

異常に濃いホオジロ、最終の鳥合わせの場所で頭上を旋回してくれたオオタカ、ツミ、ハヤブサたちの大サービス。そしてこれも最後の場所に現れ、リーダーたちをほっとさせてくれた常連のカワセミとイカルチドリ。参加者36名で番外種を加えて36種。最初は鳥の少なさに心配したが、終わってみれば参加者の多くが不満の残らない鳥見になったのでは、と思う。

(山口芳邦)

6月6日(日) 北本市 石戸宿

参加：48名 天気：晴

カイツブリ カワウ アオサギ カルガモ コジュケイ キジ キジバト カッコウ ホトトギス カワセミ コゲラ ツバメ ヒヨドリ ウグイス オオヨシキリ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ スズメ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (25種) (番外：カオジロガビチョウ) カッコウの声を聞いた人は少なかったが、ホトトギスとウグイスの声は全員が聞けたと思う。以前は石戸宿では6月にウグイスの声を聞けなかったと思ったので参加者に質問したら、以前から聞けたとの回答。???。自宅に戻ってから古い資料をめくってみた。年6回の定例は、91年の12月が最初。92～95年の6月の探鳥会記録に、カッコウはあったが、ホトトギス、ウグイスはない。(96年5月に転勤で引っ越した) 福島県郡山では、夏でもモズとウグイスがいるので驚いた記憶がある。石戸宿にウグイスがいるならホトトギスは渡りの途中ではなくて、繁殖しているという事?

(吉原俊雄)

6月6日(日) さいたま市 民家園周辺

参加：56名 天気：晴

カイツブリ カワウ ダイサギ カルガモ キジ コチドリ コアジサシ キジバト カッコウ カワセミ コゲラ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ オオヨシキリ セッカ シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (25種) (番外：ドバト) 好天に恵まれ、久しぶりに工事中の差間コースを歩いた。コースの前半は金網越しの観察となる。この日、工事はお休み。さわやかにカッコウが鳴き今年生まれの若鳥たちも見られて、鳥たちもつかの間の休日を楽しんでいるようであった。

(手塚正義)



連絡帳

●来月から「日本野鳥の会埼玉」に

本誌8月号で既報のとおり、11月1日から、私たちの「日本野鳥の会埼玉県支部」は、「日本野鳥の会埼玉」になります。

名称が変わっても、事務局、電話やFAXの番号、メールアドレス、ホームページ、役員・リーダーたち、会員の皆様の立場、会費の額、その支払い方法など、すべて今までと変わりありません。『しらこぼと』は今の「支部報」から「会報」と呼ばれるようになりますが、今までどおり、毎月会員のお手元に届きます。引き続き、「日本野鳥の会埼玉」をご支援ください。

●腕章・旗を準備中

名称が変更になると、探鳥会用の腕章や旗も作り直さなければなりません。腕章は今までの安全ピン式から衣服を傷めないクリップ式に変更、写真のようなデザインで業者に発注しました。

旗は業者とデザインを打ち合わせ、次回役員会で検討を進めます。

●他支部の名称変更の状況

茨城支部から、11月1日づけで「日本野鳥の会茨城県」に名称変更するとの連絡が届きました。

また、財団本部事務局から、7月26日現在でまとめた全国支部・提携団体の名称一覧が送られてきました。それによると、全国90支部のうち、既に名称変更したのは51団体。

「日本野鳥の会やまがた」のように、ひらがなにしたのも7団体ありました。また、「支部長」を「会長」と呼ぶことにしたのは9団

日本野鳥の会
埼玉

体、「代表」と呼ぶことにしたのは42団体とのこと（「埼玉」では「代表」と呼びます）。

●会員数は

9月1日現在2,061人です。

活動と予定

7月27日(火) 見沼たんぼ・さいたま市&市民ネットワーク平成22年度第1回運営会議に藤掛保司支部長と楠見邦博監事が出席。

8月14日(土) 9月号校正(海老原美夫、大坂幸男・手塚正義・藤掛保司・長嶋宏之)。

8月15日(日) 役員会(司会：山口芳邦、各部の報告・腕章作成案・リーダー研修会打ち合わせ・その他)。

8月23日(月) 「支部報だけの会員」に向け9月号を発送(倉林宗太郎)。

8月25日(水) 見沼たんぼ市民ネットワーク第2回運営会議に藤掛、楠見出席。楠見は写真コンクールの審査員をつとめました。

●10月の予定

10月2日(土) 編集部・普及部・研究部会。

10月9日(土) 10月号校正(午後4時から)。

10月16日(土) 袋づめの会(午後3時から)。

10月17日(日) 役員会(午後4時から)。

編集後記

野鳥情報は例年のように夏枯れで、2ページ分の原稿を組むことができませんでした(藤)。

行事報告はここのところ3ページが続いたので、次号からは通常の2ページに戻ります(森)。

還暦を迎えたので、その手習いに大型自動2輪の免許に挑戦した。取得できて思ったことは、これからでも、まだまだ沢山のことができそうだということだ(部)。

しらこぼと 2010 年 10 月号(第 318 号) 定価 200 円(会員の購読料は会費に含まれます)

発行人 藤掛保司 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 郵便振替 00190-3-121130

〒330-0064 さいたま市浦和区岸町 4 丁目 26 番 8 号 プリムローズ岸町 107 号

TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 <http://35.tok2.com/wbsjsaitama/>

編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 野鳥情報 toridayori@hotmail.com

住所変更退会などの連絡先は 〒141-0031 品川区西五反田3丁目9番23号 丸和ビル

(財)日本野鳥の会 会員室会員グループ TEL 03-5436-2630 FAX 03-5436-2635

本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。

印刷 関東図書株式会社